

先を見越した防災対応は、命を守る

CeMI環境・防災研究所

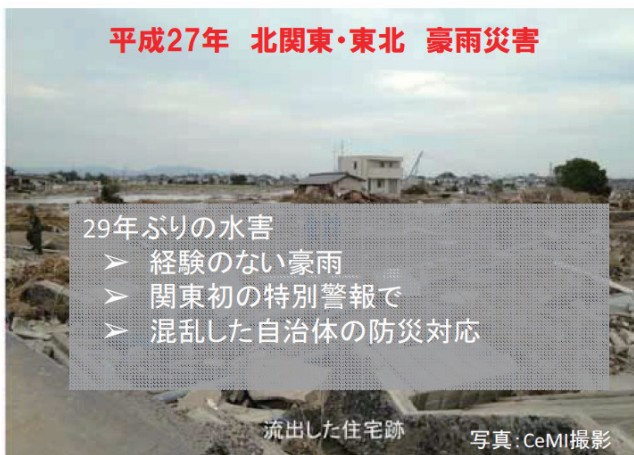
副所長 松尾一郎



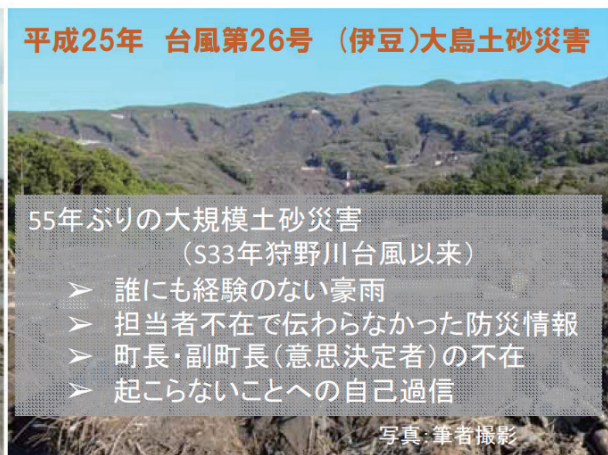
© Ichiro Matsuo

繰り返す課題 そして 防災担当者の悩み

平成27年 北関東・東北 豪雨災害



平成25年 台風第26号 (伊豆)大島土砂災害

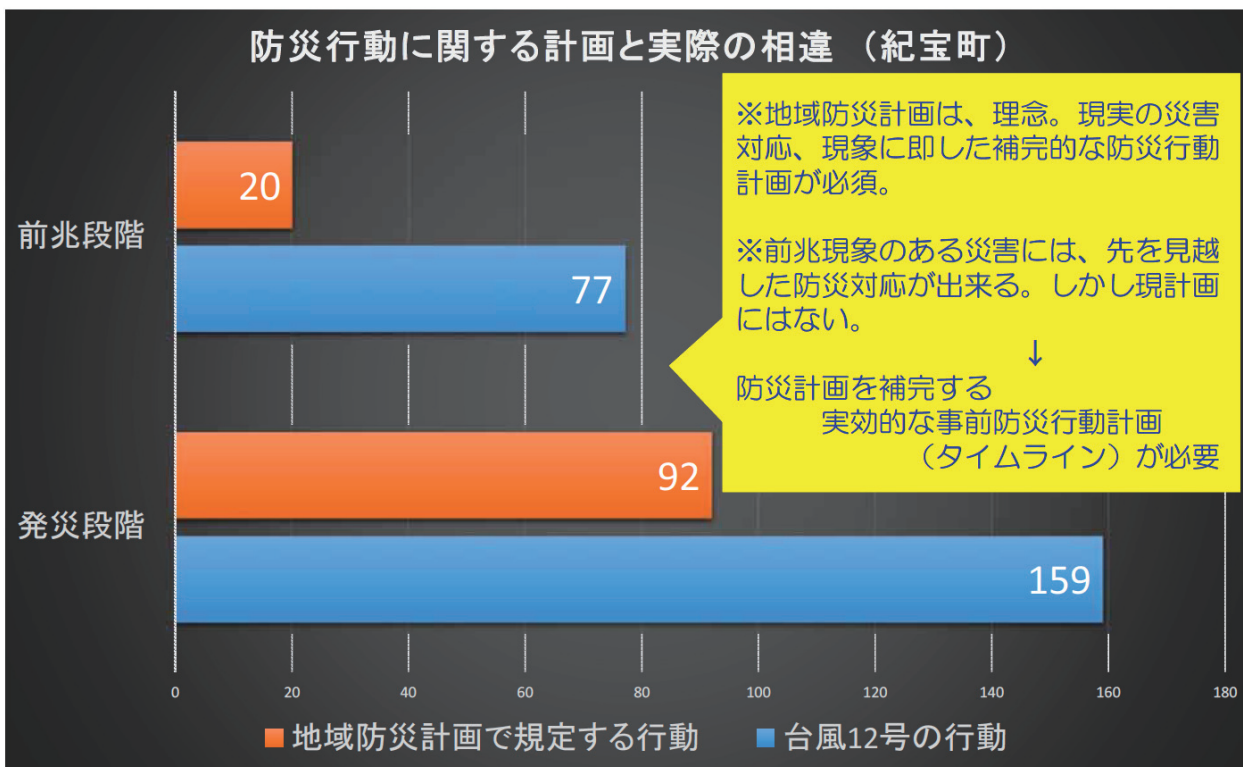


防災担当のいまの悩み

- 現象(気象・被害)が大型化していることへの不安
- 大災害は、数十年サイクル。すべての防災担当者にとっても、初めての経験。
- 防災の専任者を置く組織は少ない、それも数年で移動、経験が継承されない。
- でも住民を守りたい思いはある、でもどうすれば？ 自己責任・共同責任・公的責任。



防災機関のバイブル(地域防災計画)の課題



タイムライン を構成する 3 要素

「何時」⇒ 行動時刻;ハリケーンを対象に、上陸する時間から逆算した時間帯

「何を」⇒ 防災行動:事前に行う防災行動内容 (予め調整し決めておく)

「誰が」⇒ 防災機関や組織または個人

[illegible]

タイムラインは顔の見える関係を作る



TL策定>TL試行>TL運用

地域の防災機関が連携した防災対応



試行・検証から見たタイムラインの効果



役場職員、住民および防災機関の声

- 早めの行動によって余裕が生まれ、その後の対応の安心に繋がった。
- タイムラインをチェックリストとして活用し、行動の漏れがなくなった。
- 主体、機関間の情報共有や対応や行動の共有が効果的であった。
- 河川管理者や気象台の一步踏み込んだ情報提供が役にたった。
- 役場の定期的な情報発信が、役場の状況がよく見えた住民からの声。
- 地域が防災に向けて一丸となる一体感があつた。

台風第11号に関わる高知県大豊町タイムライン試行

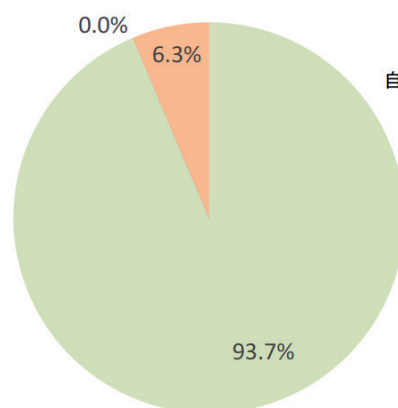
	7月14日	7月15日	7月16日	7月17日
台風第11号			室戸上陸 	
気象警報		暴風警報		
大豊町TL試行	タイムライン立ち上げ TL防災レベル1	TL防災レベル2 要支援者対応	10時 避難勧告(全域) レベル3~4	避難勧告解除



大豊町タイムライン運用課長会議 15日

タイムラインの試行 避難された町民(63名)に聞きました

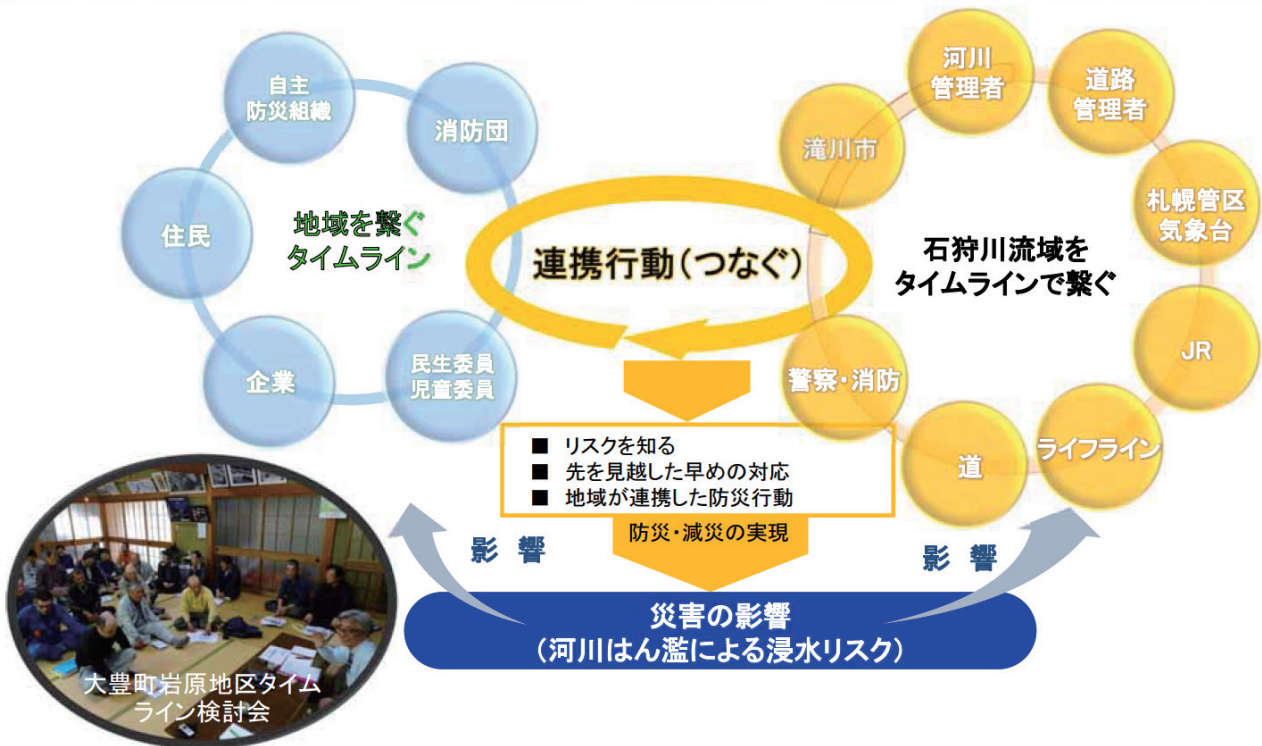
平成27年台風11号、高知県を直撃。タイムラインを試行していた大豊町は、土砂災害発生の恐れが高まる可能性もあって、16日10時に避難勧告発表を町長は英断し、町民に対して早めの避難を促した。結果として懸念された自体にはならなかったが、危険地域ある146世帯195名の町民が避難所や町外へ避難した。



自宅に災害のことを心配しながら居るよりは、早めの避難で、安心して過ごせた。

- 被害が発生してからでは遅いので、早めに避難したい
- 被害が発生しないこともあるので、早めに避難することは避けたい
- 無回答

タイムラインが地域をつなぐ



先を見越した防災行動で地域を守る

滝川地区水害タイムラインの目指すところ

	約5日前	4日前	3日前	2日前	1日前	災害後
台風性	台風発生			降雨始まる	強風の影響 大雨	
	立ち上げ	準備	警戒	行動	緊急	応急
前線性			大雨の可能性	降雨開始	大雨	

まとめ

1. タイムラインの、先を見越した早めの行動が安心・安全、減災に
2. タイムラインで、予め役割を決めて無駄な調整は最小限に
3. タイムラインは、参加機関のコミュニケーションツール
4. タイムラインは、意思決定支援ツール
5. タイムラインで、漏れ・抜け・落ちの防止、チェックリストとして活用
6. タイムラインで、活用とふりかえり(教訓や課題)が改善に

みなさまと協働して命を守る
タイムラインを作って行きましょう

ご静聴ありがとうございました。